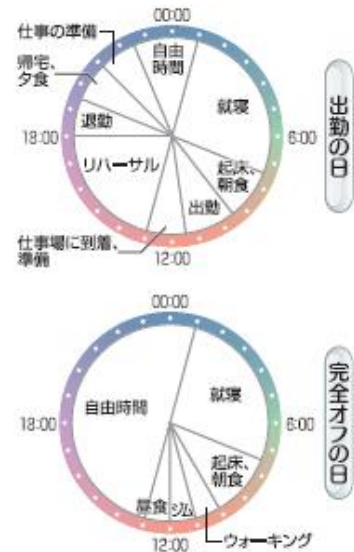


りんごの音符

15



7月に開催した「青い海と森の音楽祭」。地方で開かれる第1回目の音楽祭に参加したのは初めてでしたが、感動的な場面が多かったです。芸術監督の神澤のどろさん（青森市出身）と音楽主宰の藤原彩夏さん（五所川原市出身）、2人の「青森の人に音楽を伝えたい」という思いにオケストラのメンバーみんなが、一気にはまっています。表現が難

ファゴット 鈴木 一成さん（三重県出身）

青森思う心に“共鳴”

への憧れもありましたが、かなり繊細な作業や技術が必要だと分かり「できないな」と。演奏家を目指したのは大学2年の時でした。

しいのですが、ものすごいエネルギーが集まった感じがしていました。来年もぜひ参加したいです。僕が吹いているファゴットという楽器はどんな印象を持つでしょうか。優しい、豊かな音という言葉をよく聞きますが音域によってキャラクターが変化するんです。低い音は色で例えると赤黒い、少し怖い音が、高い音だと信じられないくらい艶やかな音が出ます。何でも表現できるのがファゴットの魅力だと思います。

◀ 鈴木一成さん (dsukephoto.com)



▶ 鈴木一成さん 1986年生まれ、三重県出身。愛知県立芸術大学音楽学部音楽研究科修士課程修了（修士号あり）。ファゴットを専攻し、同大学正の各氏に師事し、第13回東京音楽コンクール、第29回東宝音楽コンクール本賞、第1位を受賞。新日本フィルハーモニー（けいやく）団員（だんいん）オケストラ・ジャパン音楽家会（へい）で、2013年から神奈川フィルハーモニーファゴット奏者。



第13回東京音楽コンクールで演奏する鈴木さん（写真提供：東京文化会館）



楽器を知ろう ファゴット

ファゴットは、オーボエと同じダブルリード（2枚の簧）を発音体とした、低音を担当する木管楽器です。イタリア語圏やドイツ語圏ではファゴットと呼ばれますが、英語圏ではバスー

ンと呼ばれ、日本ではどちらの名称でも呼ばれています。「ファゴット」という名称は、「薪の束」を意味するイタリア語に由来すると言われています。折り曲げられている木製の管の全長

は、約2.5mにも及びます。また、ファゴットより音域の低いコントラファゴットの管の全長は6m近くもあります。ファゴットの特徴は、その独特の音色にあるのではないのでしょうか。柔らかく豊かで深みのある低音には、独特の温かみがあります。また、約3オクターブ半に及ぶ広い音域があり、特に中音域は人間の声に近いと言われ、旋律を美しく歌いあげ

ることができます。オーケストラでは、低音を支える楽器のひとつで、目立たない場面もありますが、温かく、ときにユーモラスで表情豊かな音色から、コミカルな場面でも使われることもあり「楽器の造化師」とも呼ばれます。その他にも、悲しみや情感、哀愁を表す場面でも活躍できる、表現力の幅が非常に広い楽器です。

ソロを担当することもあり、ラヴェルの「ボレロ」や、ストラヴィンスキーの「春の祭典」の冒頭は、ファゴットが活躍する代表的な曲と言えるのではないのでしょうか。オーケストラを鑑賞する機会があったら、赤茶色の独特の見た目と、温かくユーモラスな音色のファゴットに注目してみてくださいね。（県吹奏楽連盟監修）

2026年11月1～8日に第2回「青い海と森の音楽祭」が開かれます